

A study on diabetes distress and how people living with type 2 diabetes mellitus cope with it

2型糖尿病のある人の糖尿病によるつらい気持ちと向き合い方に関する研究

安藤美華代 岡山大学学術研究院社会文化科学学域

安藤晋一郎 岡山市立市民病院内科・糖尿病センター

糖尿病によるつらい気持ちは、糖尿病とともに生きる過程で時に深刻な影響をもたらす。我々は、糖尿病によるつらい気持ち尺度 (FDSS)、つらい気持ちへの気づき尺度 (ADDS)、つらい気持ちとの向き合い方尺度 (CDSS) を作成した。本研究は、これらの尺度の妥当性及び信頼性を検討することを目的とした。対象は、自記式調査に協力の得られた2型糖尿病のある日本人成人290人であった。因子分析の結果、FDSSは1因子、ADDSは8因子、CDSSは5因子で構成された。各因子における内部一貫性は、保たれていた。FDSS、ADDS、CDSSの得点は、気分状態、自己効力感、健康感に関する尺度の得点と相関がみられた。網膜症、神経障害といった糖尿病の合併症のある人はない人に比べて、FDSS得点、ADDSの下位尺度得点と合計得点が有意に高かった。FDSS、ADDS、CDSSは、信頼性および妥当性が保たれた糖尿病のつらい気持ちと向き合い方に関するアセスメント尺度であることが示唆された。

キーワード: 糖尿病によるつらい気持ち、糖尿病によるつらい気持ちへの気づき、糖尿病によるつらい気持ちとの向き合い方、2型糖尿病のある人、糖尿病によるつらい気持ちと向き合い方アセスメント尺度
